

開催日時：令和2年2月20日（木） 15時30分より

開催場所：府立茨田高等学校 校長室

出席者（敬称略）

協議会委員・・・川村幸治、早坂三郎、寺野雅之、綿世良一、渡邊哲朗、石井弘美
事務局・・・（校長）伊藤慎司、（教頭）藤原清隆、山下尚亮、
（首席）松井くみ子、西本敦史

記録・・・西本敦史

【第一部】

1. 学校長あいさつ

今年度最後の学校運営委員会となります。今年のまとめとなりますので、
いただいたご意見をもとに、来年の取組みに生かしていきたいと考えております。
よろしくお願いいたします。

2. アンケート結果より

○学校教育自己診断の結果について

生徒から得られた回答より

- ・概ね良好だが、生徒が主体的に取り組めるよう、さらに授業力の向上を図る
- ・生徒指導については、概ね生徒からの指示も得られている

保護者より得られた回答より

- ・保護者との連携は、密に取れている
- ・遅刻指導に対して、保護者の支持が得られている
- ・保護者の行事参加の割合が低下し、今後改善していく

教職員より得られた回答より

- ・教職員研修について、ニーズに合わせて計画的に実施する必要がある
- ・学校全体の取組みは、概ね教職員の理解を得られている
- ・教職員が、管理職と距離を感じているように感じられる

（委員からの質問など）

- ・人権に関わる教職員研修は実施されているのか
⇒実施しているが、世代が替わってきたのか、認識の違いが出てきた。

より、必要なものから実施するようになっていく。

- アンケートの設問にあいまいな表現があり、回答した教職員に受け取り方の差が出ているのではないのか。
⇒今後、設問の文面を精査していく。
- 生徒と保護者からの回答からは、部活動に関する反応が薄いように感じる
- 教職員と管理職の距離については、管理職が認識していれば、改善できていく
⇒今後、改善に努めていく。
- 教職員の思いがアンケートに現れにくい事から、教職員用の設問が多くなってきたようだが、やはり多いのでは。
⇒設問数についても見直していく。
- 教職員用は学校を良くしていこうとする学校内部の声を取り上げるものなので、外部に公開しない学校も多い。非公開でもよいのでは。
⇒教職員の声を取り上げつつ、他の形でまとめていきたい。

○第2回授業アンケートの結果について

⇒1回めと同様、概ね結果は良好。肯定率が高いことから、教員の授業が受け入れられているよう。学年進行により、肯定率は高くなっているようで、授業に対する生徒の意識も年々良くなっているよう。

(委員からの意見など)

- ☆ある程度数値が高くなれば、同じ方法では、さらに上昇させる事は難しい。「授業のやり方の改善」ではなく、「いかに生徒が理解できる授業をするのか」に、意識を変えていってはどうか。
- ☆授業アンケートの結果について、個々の教員がバラバラに考えるのではなく、教員全体で考える取組みを行ってはどうか。新たな取組みが生まれなくても、意識を変える事はできるはず。
- ☆結果を学校全体として考える事ができれば、次の結果は変わるのでは。教員全体がどのように動くかが大切では。

○コミュニケーション能力アンケートの結果について

⇒学年進行で見ると、25項目のうち、24項目で改善し、肯定意見が8割を超えたものが15項目から23項目に大きく増えている。コミュニケーションHRや日々の取組みが大きな成果を上げている。

○令和2年度の学校経営計画について

⇒特に、委員からの意見等はありませんでした。

【第二部】

3. 協議「本校教育の全般について」

〔議長〕『より良い学校環境を作っていくには』という点で、積極的にお願いします

- アンケート結果から、社会に出るために必要な事を学び、生徒たちに力がついている事がわかった。ただ、PTA活動への教員の参加意識が下がっているのは、接している先生方の様子とは違い、ショックを受けた面がある。

⇒設問があいまいなので、PTA行事に参加するとは具体的にどんな事なのか、先生方の認識が変化してきた可能性はあるのでは。

- 長年、地域として学校を眺めているが、生徒の様子を見ている限り、昔の生徒に比べて、良くなっていると感じている。地域の活動でも、生徒が積極的に参加してくれている。地域としても、生徒とさらに関わりたいと感じている。

- 昔のイメージも持つ中学生もいるが、学校としての取組みは、過去のイメージに捕らわれなくても良いと思う。生徒が『これがあるから茨田を目指したい』と思えるものを打ち出す事が大切では。

- 過去のしんどかった状況から脱するため、当時の教職員が頑張った思いが今も受け継がれていると感じた。

- さらに生徒のコミュニケーション力を高めるため、例えば、頑張っている先輩の話聞くことで、『思いやりを持って聴く』など、具体的に取組めるのでは。

- 外部への情報発信が弱いのでは。

⇒塾を回っても手ごたえが薄いと感じる。学力の心配な生徒が入学する事もあるが、『茨田に入学したら、自分の将来はこうしていける』と、しっかりと設定する必要がある。ただ、教員と関われば、もっと良くして行けるのと思う生徒ほど、自習室などの取組みに参加してくれない。今後は、生徒・保護者のニーズにどのように応じていくのかがカギになると感じている。

4. 校長より謝辞

『茨田高校に入学した生徒を、どのように育てていくか』という点を意識して、今後の学校運営を考えていきたいと思えます。貴重な意見をたくさんいただき、ありがとうございました。これを生かして、目標の実現に頑張っていきたい。

次年度の開催予定

第1回は、令和2年 6月18日（木）

第2回は、令和2年11月 5日（木）

第3回は、令和3年 1月28日（木） とします。